

研究計画書

ゼミ名	青木ゼミ II	チーム名	Gretl 同好会
タイトル	Gretl で為替レートの実証分析に挑む		
テーマ群	a)理論・情報 b)財政・金融 d)国際経済		
メンバー			
研究計画内容	<p>研究背景</p> <p>昨年 3 月から始まった米中貿易摩擦が、今年の 5 月から再び激化し、この 8 月には世界の金融市場が大混乱となりました。なかでも、人民元や韓国ウォンなどがアメリカ・ドルに対して減価したのに対し、円は金価格とともに大きく値上がり（円高・ドル安）しています。米中貿易摩擦の激化で中国への経済的依存度の高い韓国や台湾の通貨が売られるのは理解できますが、同じように中国に対して輸出の 2 割を依存する日本経済も何らかの打撃を受けるので、日本円も売られてしかるべきです。しかし、不思議なことに日本円は逆に買われているのです。いったいなぜなのでしょう？そもそも世間で注目される為替相場はどのような仕組みによって動いているのでしょうか？私たちは統計パッケージ Gretl を活用した実証分析により、次のような手順でこの課題に挑戦します。</p> <p>分析手順</p> <p>(1) ドル円レートの長期トレンドと現在の局面：1973 年の変動相場制移行後、日本円は長期的に円高となってきましたが、それが 1990 年代末より逆転しています。安倍政権発足以降の現在の「円安（ドル高）」をまずこの長期の視点から捉え、現在は「円が過小評価」局面にあることを、均衡実質為替レートの推定を通じて実証的に明らかにします。</p> <p>(2) なぜ円高？～金融グローバル化と新しい為替レート決定要因：日本円は他の国の通貨と異なって、世界的な不確実性増大とリスク回避局面において高くなる傾向が観察されるようになりました。その傾向を実証的に明らかにします。</p> <p>(3) 円の過小評価は修正される？：2000 年代以降の新しい為替レート決定要因に焦点を合わせて、現在の円の過小評価が修正される可能性を明らかにし、そのメドを実証的に示します。</p>		